

## 第 147 回浜田市教育委員会定例会議事録

日 時：平成 29 年 8 月 24 日（木） 13：30～16：01

場 所：本庁 4 階講堂 AB

出席者：石本教育長 藤本委員 宇津委員 金本委員 花田委員

事務局 佐々木部長 河上課長 村木室長 森脇課長 岡田室長（欠席）

山根課長 島田館長 長見所長 外浦課長 村瀧室長

原田分室長 佐々尾分室長 森下分室長 吉野分室長

書記：湯浅係長 皆田主任主事

### 議事

#### 1 教育長報告

#### 2 議題

- (1) 公民館職員（主事）の選任について（資料 1）
- (2) 教育委員会自己点検・評価について（資料 2, 3）
- (3) 教育委員会学校訪問について

#### 3 部長・課長等報告事項

#### 4 その他

- (1) 運動会（体育祭）の日程について（資料 13）
- (2) その他

#### 1 教育長報告

石本教育長

お盆も過ぎたがまだまだ暑い時期が続いている。昨日あるところで話をしたが、先週 NHK のニュースを見ていたら「もう夏は終わった。」と宣言しておられたが、終わったようには思えない日が続いている。これからまた夏の疲れが出る時期であるので、皆様にはくれぐれも体に留意されて過ごしていただきたいと思う。学校も来週からは 2 学期が順次始まる。2 学期が始まるとすぐ運動会、体育祭ということで、皆様方にもお出かけいただくことになるが、併せてよろしく願いしたい。

① 7 月 27 日（木）第 31 回全日本小学生ソフトボール大会出場・市長表敬（庁議室）

浜田中央スポーツ少年団が、18 年ぶりに 2 回目の出場ということであったが、島根県代表として全日本小学生ソフトボール大

会に出場するという事で、市長表敬をされた。結果は残念ながら1回戦で静岡のチームに10対1で敗れたという連絡を受けたところである。

② 7月28日（金）公民館主事感謝状贈呈（国府公民館）

平成29年度奎星会夏期書道研究大会・～30日（国府小体育館）  
国府公民館の主事が、自己都合で辞められるということで、5年以上勤務していただいたことへの感謝状を贈呈した。

同じく28日（金）から30日（日）にかけて奎星会夏期書道研究大会が開催された。これは昨年度も行われ、2年連続で浜田で行われた。奎星会という全国規模の、日本を代表するような大きな書道団体であるが、その夏の研究大会、いわゆる勉強会といったものを浜田で開催していただいている。浜田の五風会の方々がこの奎星会に入っておられてお世話をしておられた。大変暑い中だったが、国府小学校の体育館にエアコンを持ち込んでやっておられた。前衛書道が中心になっているので私にはわからないところがあったが、熱心な研究会で、五風会の皆様方も大変喜んでおられた。私は開会式だけ行ったが、文化振興課長は交流会にも出席した。

③ 7月31日（月）市社会教育委員の会・建議提出

「教育創生の拠点となる博物館建設に向けて」といったことで提案書が出された。これは昨年、歴史資料館を作るということで浜田でも議会を中心に、また市民の皆様にもご意見をいただきながら進めてきた取組があるが、そういったものに対する社会教育委員方としての意見をまとめたということである。これは教育委員会で受けたが、来週月曜日には市長に提出をして説明をされるということになっている。委員方にも時間をとって説明等していきたいと思う。

④ 8月1日（火）島根県教育委員会・教育委員研修会（中央図書館）

委員方にもご出席いただいたが、中央図書館で島根県教育委員会主催の教育委員の皆様方の研修会が行われた。今回は県の教育長の講演とその後、グループに分かれて色々な意見交換ができたということで、大変有意義な会議であったと思う。来年度以降も同じような形で開催される。西部と東部で1年おきに開催するので、こちらでするのは再来年になるかもしれない。

⑤ 8月6日（日）平成29年度島根県PTA連合会研修大会（石央

文化ホール)

基調講演は竹下和男先生という方で「子どもが作る弁当の日」の提唱者で、全国で年間何百回も講演をして歩いておられる方であった。三隅中校区では数年前からこの取組を実践しておられ、そういった実践発表もあったし、もちろん竹下先生のお話も聞いたということである。人は置かれた環境に適応してできるようになる、やらざるを得ない、それが成長なんだ、生き延びるためにはそうせざるを得ない、というような話をされておられたし、弁当を作ることで子どもの感性が育つといったような話もされていた。

いずれにしても、愛されて育った子どもは素敵な大人になる、と言われたことが心に残っている。

⑥ 8月7日(月) 教育講演会(県立大学講堂)

教育講演会について、残念ながら私は他の公務で出席できなかったが、委員方にはご出席いただいたところである。島根大学の岩宮先生のご講演ということで、岩宮先生のごことは以前から梅津元委員長から色々何回もお話を聞いていたので、ぜひ聞きたいと思っていたが残念であった。分かりやすいお話であったと聞いている。

⑦ 8月8日(火) 浜田地区教科用図書採択協議会(教育委員会)

今までは3市3町教育長会という会議の名前が付いていたが、最終的な会議が行われ、7月の定例会で浜田市としての道徳の教科書を決めていただいたが、決めていただいた教科書のとおり、浜田地区の3市3町ではその教科書を使おうということに決定をしたところである。公表されるのは9月1日以降ということである。

⑧ 8月10日(木) 平成29年度はまだっ子共育プロジェクト研修会 IV

第33回全国小学生陸上競技交流大会出場・市長表敬(庁議室)

今年度のはまだっ子共育プロジェクトの研修会、これはトータルすると4回目ということになるが、その研修会があった。講師には先ほどもあったように、岡山大学の熊谷教授に来ていただいた。熊谷先生は益田市出身の方で、以前も浜田でご講演をいただいた方である。このはまだっ子共育プロジェクトについては今までにも説明をしているが、平成29年度にプロジェクトの推進本部というものを立ち上げて、色々な取組をしてい

るが、基本理念として「地域ぐるみで子どもを育み子どもも地域も大人もお互いに高まりあおう」というような理念の下に進めている取組である。

その下のところで、33 回目の陸上の関係で全国大会に出場する子どもさんが市長のところに挨拶に来られた。岡見小学校 6 年生の松本君、三階小学校 6 年生の大場さん、2 人とも走り高跳びに出場し健闘したが、8 位以内の入賞ということにはならなかった。

⑨ 8 月 17 日（木）平成 29 年度・ふれあいフォーラム（石央文化ホール）

ふれあいフォーラムについて、これも委員方にご出席いただいた。NPO 法人崇仁まちづくりの会の菱田専務理事さんがお話をされた。菱田さんは 10 代の後半から部落解放運動に参加をしたということで、かなり長い年月そういった運動に携わっておられ、具体的な差別の実態を例示しながら分かりやすいお話をしていただいた。差別に負けない子どもは勉強にも負けない子どもだ、というようなお話をされていた。地域をあげて大人も子どもも勉強するんだと、そういった取組をずっとやってこられたというようなお話をされ、そういったことで、差別にも負けない子ども、大人を作るんだ、といったようなお話であったと伺っている。

⑩ 8 月 18 日（金）全国中学校柔道大会出場・市長表敬

8 月 19 日（土）第 60 回記念・夏季書道講習会（松原小）

第 14 回浜田市教育長杯子ども囲碁大会（市総合福祉センター）

柔道の全国大会に出場する第三中学校 3 年生の有馬さんが市長表敬に来られた。女子の 44kg 級ということで出場される。おそらく今週のところで試合は終わっていると思うが、結果についてはまだ聞いていない。

それから 8 月 19 日（土）には夏休みの恒例になっている島根県習字教育連盟主催の夏季書道講習会が、松原小学校で行われた。第 60 回ということで、人間でも 60 歳になると次のステージへというような話になるが、今年は講習会も新たな展開をというような話をされていたが、初回から 60 回目まで参加されているのは森須園先生と江津の山藤耕子先生のお二人だといったようなご紹介があったところである。

同じく 19 日には浜田市福祉センターで、第 14 回目の浜田市

教育長杯子ども囲碁大会があった。私は囲碁が分からないのだが、開会式に出席をして子どもたちの様子を見たが、始まる前から囲碁の好きな子どもたちは友だちを見つけて囲碁を打っているという状況であった。

22名の少ない参加ではあったが、その中に県代表で今年の全国大会へ出た2名が含まれており、1人は浜田の子ども、1人は出雲の子どもだったが、熱戦を繰り広げ、レベルの高い大会になったと思う。出雲から益田まで、各市からそれぞれ腕に自信のある子どもたち、中学生と小学生が参加した大会であった。

⑪ 8月22日（火）島根県教職員組合浜田支部・要望活動（教育委員会）

おととい、県の教職員組合浜田支部の役員の方が来られて、学校現場、先生方からの要望事項について、説明をしていただいた。やはり今学校現場で一番問題にされているのが、教員の多忙感ということである。時間外という概念はないが、正規の勤務時間以外の勤務をどう削減していくかということが、学校現場での一番大きな問題になるというような話しをされていた。

そこで先生方から言われたのは、管理職の方が教育委員会には報告されているであろうけれども、特に小学校については管理職の方が、先生方の本当の勤務の実態を把握しておられないと思うといったような話があった。中学校の場合は、部活があって、その部活が何時から何時までやったというような報告をするので、だいたい土日も含めて何時頃までするか、どれくらいの時間帯、月にして何十時間という超過勤務の実態が把握しやすいが、小学校の場合そういったものがないので、本当は、出勤時間と退勤時間を記録して管理職へ提出するようになっているが、それも取組が不十分だというご指摘もあったので、9月の校長会のときに徹底するように教職員の实態をしっかりと把握して、何かあってはいけないので、事前の対応をしてほしいと話をしようと思っている。

また組合の方が言われるのには、管理職の方が先に帰られるのは当たり前で、仕方がないことではあるが、一言「遅くまでご苦労さんだね」といった気配り、声かけなどそういったところの優しさがほしいという意見が一部の学校にはあったよ

うである。もちろんそれをされている管理職もおられると思う。

それから、労働安全衛生委員会ということで学校の先生方、組合の代表の方、教育委員会の職員、そして先生方の健康を管理する産業医、健康管理医とも言われるが、そういった先生方が一緒に入っておられる労働安全衛生委員会というような組織をされているが、中々開催の実態が少ないということで、この辺の開催についてもぜひ前向きにお願いをしたいというような要望もあった。

それから、何といても特別な支援を要する子どもが、普通学級の中で増えてきているということで、何とか支援の加配についてお願いをしたい。今までも相当な予算をつぎ込んで、支援員については年々と増加をしてきたということもあるが、その辺のところを更に拡充をお願いしたいといったようなところである。

最後に1つ、事務の方が言われて、そんなことがあるんだ、と思ったことが1点あった。というのが、学校が色々な集金をされるのだが、不必要な、そこまで集金しなくてもいいような集金までして保護者に負担をかけているのではないか、といったようなことを事務職の方から言われた。例えば、中学校の生徒会費や教育後援会費、そういったものを集めている学校がある。確かに、市の予算の配当が少ない場合にはそれだけでは十分な事務や事業を行えなかつたりするといったことで、集められたのであろうが、ずいぶん前から集め始め、今も続いているのであると思う。益田から来られた先生が、最近市からの配当予算もかなりの金額があると言われていたし、浜田市の場合、益田市と比較すると学校が自由に使える予算が3倍くらいある。そういった中で、保護者からあれこれ集める必要はないと、自分は思う、と話をされて、その辺はまた教育委員会で検討していけるとありがたいというようなお話があった。今までそんな話を聞いたこともなかったので、そういうこともあるのかと気づきをしたところである。またこれについて、校長先生方の話を聞きながら、少し検討していく時期なのかなという気がしたところである。

1か月間の報告は以上である。

今のところで、質問等はあるか。

質疑応答

藤本委員

先ほどの報告の中で博物館建設という建議が出されているが、浜田市には資料館があれば美術館もある。それとは別個の考えか。

石本教育長

去年来、歴史資料館を作るという話があったが、その言い方を博物館という言い方にされておられる。市が考えていることの後押しと言うか、自分たちもぜひそれを作ってほしいという、社会教育委員としても、現状のものでなくて、新たなものを作ってほしいというような、要望も含めた市に対しての意見を出すということで教育委員会に出された。本当は今日お配りすれば良かったのだが、間に合わず申し訳ない。

藤本委員

資料館の議論と同じか。

石本教育長

そうである。

宇津委員

イメージからすると、博物館とはちょっと違うと思う。

藤本委員

私もそう思った。また別のものを建てるのかという感じがした。

石本教育長

資料館にしても図書館にしても、博物館法の範疇に含まれる。そういったことだと思う。他はよろしいか。

委員方

特になし。

2 議題

(1) 公民館職員（主事）の選任について（資料1）

山根課長

資料1をご覧いただきたい。公民館職員の任命をお願いするものである。先ほどの日程にもあったが、国府公民館の村武主事の退職に伴う後任の主事である。名前を石渡一子さんと言われ、地元の下府町にお住まいである。62歳になられる。任期については年度末までということである。石渡さんにおかれては医療法人でお勤めがあった。また、近年においては島根県立大学のメディアセンターにも勤務されていた。現在、放課後指導クラブの支援員の仕事も手伝っておられ、それが今月いっぱいはあるということで9月1日からとなっている。よろしく願いしたい。

石本教育長

今まで公民館活動などしておられたのか。

山根係長

それはほとんどない。

石本教育長

今、国府公民館の主事に石渡一子さんをとの提案があった。少し人となりなど分かりにくいところがあったが、何か意見、質問等あるか。

委員方

特になし。

石本教育長 | それでは、国府公民館の主事に石渡一子さんを任命するという  
ことで決定させていただく。

(2) 教育委員会自己点検・評価について (資料 2, 3)

石本教育長 | 委員方には遅くなったが事前に送らせていただいた。お目通し  
をいただいている。どのように進めるか案があるか。

湯浅係長 | 昨年度は 4 項目ぐらいずつを確認しながらだったと思う。今回は  
事前に送付済みではあるが、平成 28 年 3 月に作成した浜田市  
教育振興計画の項目に沿って、今回点検項目として提示させてい  
ただいている。項目数は 75 項目ある。施策の柱は違うが具体的  
な取組の項目は同じものがあり、その部分については浜田市教育  
振興計画においても再掲とされていることもあり、自己点検・評  
価表の中でも項目は違うが内容は同じものとして取扱うことと  
している。

具体的なところで少し説明をさせていただく。ページ番号はな  
いが、目次のところを見ていただきたい。2 の I (1) ⑦になる  
が、土曜学習支援事業があり、次のページの III (1) ⑤土曜学習  
支援事業を【再掲】としている。これが同じ内容となっている。  
それからまた戻るが、2 の I (2) ③親学プログラムの実施である。  
これについては次のページの II の (1) ①で【再掲】として  
いる。それから II (1) の③つなぐ、つながる事業 (三世代交流・  
通学合宿支援) であるが、これと下の III (1) ⑥を【再掲】とし  
ている。この 3 項目について同じ内容がある。

それから、前回各委員に送付させていただいた内容から多少変  
わっているところがある。事前送付からの変更として、見出し記  
号の統一をさせていただいている。前回、丸点や大きな丸等がそ  
れぞれのページで使い方がバラバラであったので、浜田市の規定  
で配字の部分で、項目を細分化するという項目の付け方として、  
最初に半角の数字、それからその次の小項目で括弧付きの半角の  
数字、その下がカタカナ、その次が括弧付きのカタカナ、それか  
らその次が小文字の英字、その次が括弧付きの小文字の英字とい  
うような並びに直したのと、誤字脱字といったような部分につ  
いて改めて確認させていただき本日の資料としている。それぞれ見  
ていただくか、各項目、施策単位で見えていただくかといったと  
ころについては、検討しやすい方法でしていただければと思う。

石本教育長 | これは 9 月議会に出すのだろうが、スケジュールはどのように



- なっているか。
- 湯浅係長 スケジュールとしては、総務文教委員会の資料提出締切が8月31日（木）となっている。この日に資料提出が必要なため、本日も検討いただいた修正等の反映については、印刷等の関係もあるので最終期限を8月30日（水）の夕方にしたと思う。
- 石本教育長 とりあえず今の段階で委員方に訂正箇所について今日伺っていく。尚且つ、もう少し時間があるので変更等があれば後日連絡をして、先程8月30日（水）の夕方と言われたがもう少し早い方が良いと思うので、8月28日（月）の夕方くらいまでのところで、再度お気づきの点があれば連絡をしていただくということによろしいか。
- 湯浅係長 よい。それを受け、改めて修正箇所を訂正したものを委員方へ送付させていただければと思う。
- 石本教育長 最初にスケジュールを押えておく。今日、訂正箇所等についてはご指摘をいただく。尚且つ、お持ち帰りいただき、訂正した方が良いという箇所があったら、8月28日（月）の17時までのところで、教育総務課の湯浅係長へご連絡をいただければと思う。日程はそのように押えていただきたい。
- それでは今回項目が前回よりも増えているので、少しずつというのは難しいが、最初の学校教育のところから順番に見ていく。No. 1 から No. 10 ぐらいのところでは何かお気づきの点があればご指摘を願う。
- 宇津委員 湯浅係長から再掲について説明があった。確かに3箇所（組）ある。No. 7 のところと、先になるが No. 41 が再掲となる。ここで事業の視点というか、どういう目的あるいは目標を持ってこの事業を行ったのかという頭が違っているわけである。例えば、No. 7 で言うと「生きる力の育成」というところに力点を置いて取組んだ。No. 41 の場合は「ふるさと郷育の推進」という視点で取組んできた。それに対して全く同じ評価で良いのかという疑問を持った。事業の内容は変更のしようがないとは思いますが、最後の教育委員会の評価というところで、若干そこの辺りが変わってくるのではないだろうかという気持ちがしたので、ご検討いただいたらという気がした。
- 金本委員 私も No. 7 の学力向上ということで子どもの立場からということと、No. 41 は生涯学習ということで社会教育というか、地域を巻き込んで、地域の方でというか、教えるほうの立場からの感じ

宇津委員	<p>がする。</p> <p>同じようなことが No. 21 と No. 29、No. 31 と No. 42 のところで出てくる。</p>
石本教育長 山根課長 石本教育長	<p>担当課から意見はあるか。</p> <p>調整を試みる。</p>
藤本委員	<p>確かにやっていることは同じだが、分類されているところが違うということはそれぞれの視点があるということであるから、それに応じた評価なり、その辺のところは学校教育課と生涯学習課で相談をお願いしたい。本当は目的も多少違うかも知れないが。</p>
藤本委員	<p>私も孫が土曜学習を利用させていただいたことがある。もともと土曜学習事業というのは学力の支援事業だという位置づけであると思う。ここで再掲になるというのが、学力向上という部分でいけば学校教育課の範疇に入るがふるさと郷育を所管してやっているのは生涯学習課となる。だから両方が出てくるのだが、できればどちらかにしたほうが良いのではないか。主たる目的というのはやはり生きる力の育成、学力の向上を目指してという部分だと思う。ふるさと郷育は主たる目的ではない。これは希望者だけであるため、そこに行く子はふるさと郷育を学ぼうと行っているわけではなく、自分の学力の及ばないところを助けてもらおうと行っている。</p>
石本教育長	<p>1つ補足する。この事業をスタートしたときにはいわゆる学力向上だけでなく、ふるさと郷育的なものも併せてしたいという思いがあった。国の方針として、国も文科省の中で言うと生涯学習局というところが推進している。単に学力向上だけではない。学力向上があったにしてもそれは地域をあげて子どもたちに学力向上を目指すようなそういった取組をしてほしいというような社会教育的な意味合いでスタートした。本当はこれだけではない、地域のことを学習するようなことも、土曜学習の中に取り込みたかったが、今の段階でそれができていない。</p>
藤本委員	<p>だから生涯学習課も担当しているのか。</p>
石本教育長	<p>そうである。蓋を開けてみたら生涯学習課でなくても、学校教育課でも良いのではないかとということになっているが、いずれにしても、元々の主眼というか狙いが違うので、それぞれに応じたような書きぶりをするよう検討してみる。ここだけでなく、先ほども言われたように 3 つ項目の再掲があるので同じような考えで検討させていただく。</p>

委員方	No. 10 までのところで他に何かあるか。
石本教育長	特になし。
花田委員	それでは次へ進む。No. 11 から No. 20 まで何かあるか。
石本教育長	No. 17 の幼児教育の充実のところで、指摘というか感想であるが今後の評価について、今後この様に考えていきたいという方向が明確に示されているので良いと思う。そういう方向にいかねければならないと思っていた。平成 29 年度はどうなっていくのか、ぜひこういう方向で、どんどんいっていただきたいと思う。
石本教育長	総合教育会議での市長との話の中で、子育ての部分、福祉と教育の両方に分かれているものを 1 つにした組織立てについても検討するという話が出ており、内部でも調整している。色々な例を見ると、福祉サイドに本体があるところと教育委員会の中にあるところと両方あるので、どちらでもできるとは思いますが。市長が着任されて半年後くらいから、放課後児童クラブを福祉がやっているのが理解できないと言っておられた。これは学校教育課とセットだろうという思いを常に持っておられる。教育委員会としては今のところそうではないと、話をしているが理解してもらえずに今まで来ている。組織を作ればそういったことも含めて調整を図っていくことになる。ご意見ありがとうございます。
森脇課長	1 つ良いか。No. 12 特色ある学校づくりの推進の補助金の関係であるが、1 円単位で出して余ったお金を返した学校もあるということか。
石本教育長	そうである。
石本教育長	使い切りでないのか。
森脇課長	上手にやる方法があるのかもしれないが、まだ使い慣れていないのではないか。
石本教育長	補助金をもらったなら多少手出しがあるにしても基本的に全部使い切るのでは。
佐々木部長	ほとんどそうである。
宇津委員	心配なことがある。例えば大会の遠征費。特色ある学校づくりを普及するという大きな目的があるが、遠征費やスポーツ大会に当てている学校はあるのか。
森脇課長	例えば市駅伝大会に全校で参加するといったようなことはある。ただほとんどが、例えばスキー教室であるとかスポーツ関係で言えばそういうようなことに使われているようである。
石本教育長	全校で市駅伝大会に出場するというのは第四中学校であるか。

森脇課長	そうである。
石本教育長	第四中学校の周辺で開催されるから参加するということである。
藤本委員	今までは他の経費から対応していたものに、この補助金を当てるとなるとちょっと意味合いが違うのではという気がする。今までであったものに充当するのではなく、今までなかったものに取り組むのであればわかるが。少し疑念を持つ。
石本教育長	使い道については、新たな取組でないといけないということは特段決めていないのでは。
森脇課長	そうである。ただ、下の評価のところを書いてあるように、これまでしたくてもできなかったことができたということにおいては、意味があったのかなと思う。
石本教育長	例えば、今まで保護者負担をしていたところが、この補助金によって負担がなくなったところがあるか。
森脇課長	どの事業がもともと保護者負担であったかということは把握していないが、色々な体験活動ができたということはそういうことであると思う。
石本教育長	スキー教室と書いてあった。スキー教室は全額学校が出してくれるわけでない。保護者負担があるはずである。その部分が補助金によって減っているのかなと思う。
佐々木部長	スキー教室は旧那賀郡の自治区の一部であって、それは別の補助金があった。それを全部止めて今回はこれに統一した。
森脇課長	以前は自治区枠の補助金があった。それがなくなって、スキー教室ができなくなったと言われるところがあったが、この補助金によってできたということである。
石本教育長	No. 15のところは確かに書きにくいところではあるが、他のところと比べて書きぶりが簡単である。もう少し教育総務課で肉付けをお願いしたい。
湯浅係長	承知した。
石本教育長	No. 20のところまで他にあるか。
委員方	特になし。
石本教育長	それではNo. 21 から No. 30 までのところで何かあるか。 ここだけの話ではないが、NO. 25 と No. 26 のところに給食の写真が出てくる。確かに字がずっと並んでいるよりわかりやすい。他の項目のところでも全部写真を入れるというのは難しいが、ポイントごとに絵があった方がわかりやすいかと思う。ただ、絵を入

湯浅係長  
花田委員

れることによって字数が限定されて記述ができなくなるようなところは困るかもしれないが。白い箇所が目立つところは、本質とは違うが写真を入れるといったテクニックもいいのではと思う。難しいことではあるが検討していただきたい。

承知した。

No. 30 家庭教育支援チームの結成について、評価のところでは何が結成に至らない理由とか、それをどう潰していくのかとか、もう少し書きようがある気がする。検討を続けていっても、できるのだろうかと思ってしまう。

山根課長

非常に苦しんでいるところである。現在、就学前の子どもを中心として、浜田市独自の親学のプログラムができないかということで、福祉部局と学校教育課とも検討を重ねている。しかし、現段階で具体的にチームの編成までに至っていないというのが現実である。

石本教育長

ただ、28 年度の実績のところでも「協議は行っているが、結成には至っていない」と記述がある。具体的にどういった協議をしてなどその辺も書き込まないと分からない。もう少し丁寧な説明が必要である。結成に至っていないのなら、何が原因で至っていないのかということも含めて書き込んでみてほしい。

宇津委員

公民館を巻き込むという手はないか。地域に根ざした組織、要するに子どもたちの情報を入手しやすいチームでないと、公民館が音頭をとってくれるような組織作りができないかと思う。組織ばかり作っても機能しないというところもあろうが。何か協力を得られないかという思いがした。

山根課長

学校教育課サイドでは支援チームがあるが、おそらくメンバー的には同じ感じになると思う。ただ宇津委員が言われるように、地域のことであるので地域の関係者、民生委員等が入られないと見えてこない。

石本教育長

宇津委員が言われるように、公民館を巻き込んだり、地域を巻き込んだりということではないと生涯学習課が主管する意味がない。今までの実績のところには挙がってこないと思うが、今後の評価のところではその辺の方向性について書き込みを検討してもらいたい。

村木室長

1 点良いか。昨年度担当をしていたのだが、参考として、県下では 1 チームもないというのが現状である。県下においても支援チームというのがない。それだけ難しい。松江市でも 1 回できた

が潰れたようである。その理由は、生涯学習課長も申し上げたが、学校教育課が持っている組織と役割分担が上手くいかなかったというような話を聞いている。松江市が3年前にできたが翌年につぶれて、現在ではこの支援チームは島根県内では0だと聞いている。

石本教育長  
宇津委員

難しいのはわかったが、それを乗り越えてやっていこう。

No. 27 のところで、充実させることに異論はないが、スポーツ、体育に対する助成が非常に手厚く、額が高い。一方、子どもたちの活動の中には文化活動もあるわけで、文化活動に対する補助、例えば連合音楽祭など事業ごとに補助をしているのか。

森脇課長

事業ごとにあるものと、部活動等への助成ということもある。どこまで手が行き届いているかまで調べるのは難しいところだが。

石本教育長  
委員方

他にはよろしいか。

はい。

石本教育長  
金本委員

No. 31 から No. 40 のところで何かあるか。

No. 32 「家読」の推進であるが、各学校ではノーメディアデーと家読を一緒にやっているところがたくさんあると思うのでそういうところについて書いてもらえればと思う。

石本教育長  
森脇課長

ノーメディアデーと家読の関係は小中連携でやっている。

小中連携の中でそういうことを学校ごとに挙げているところがある。ただこの項目と連動しているかというとしていないと思う。

石本教育長

どこがどういう取組をやっているかというのは資料があるのか。

森脇課長

何となくは分かる。

石本教育長

生涯学習課に資料提供をして、その辺も含めて書いてもらえればと思う。中央図書館で家読の関係で他と連携をしてということはないのか。

島田館長

昨年作った推進計画の中で述べている。

石本教育長

具体的にそれを実行するために、どういったところと連携をとってやるとか、その辺までは書いてないのか。

島田館長

書いていない。

石本教育長

確かに一時期、家読を教育委員会の方針として打ち出そうと盛り上がったときがあった。4、5年くらい前である。なぜ取りやめになってしまったか忘れたが。

金本委員が言われたことを記述に加えてほしい。

No. 38 ふるさと再発見事業と No. 40 の 1 番下の教育委員会の評価というところが、もう少し書き込みができないか。確かに上の実績でスペースを取っているので行数がないというのはあるが。それにしても教育委員会の評価はこれ以外にも色々言える事があると思う。大まかに書いてはあるが、もっと具体的にこういったことに取り組んで更に進めていくという様な書き方ができると良い。

花田委員

No. 36 について「施設が移転したことにより利用者に戸惑いがあり利用が減った」とある。評価に書くとこのような文章になると思うが、現状としてこの場所に行けなくなった子どもがいるということはかなり切実な問題であり、こちらの施設移転という都合によってそういうことが切られてしまっているという状況だが、現在はどうなっているのか。再度来てもらえるようになったとか、どういう働きかけをされたのかということを知りたい。

長見所長

最初は慣れないという事で、来られるのは来られるが多少抵抗があるということは実際にあった。場所が変わったのと同じタイミングで来る回数が減ったり、本人たちの事情もあったりして、書き方としてはこうなったが、実際には新たな方も増えていたりするので場所が変わったということだけで全く来なくなったということはないと思う。

石本教育長

1年間を見たときに、最初戸惑いもあって、件数は減ったけども以前来ていた子どもたちはまた来始めているということか。

長見所長

そうである。事情があって来なくなった方もいるが、引き続き継続で来ている方は、場所が変わって一時途切れたがまた来ているという状況である。

石本教育長

引っ越したことによる問題は今のところは解消されたと考えて良いか。

長見所長

最初の慣れないところに来るという戸惑いはこちらが思う以上にあったのは事実だが、来るようになれば大丈夫である。

石本教育長

来年またこちらの都合で場所が変わるが。

長見所長

もうすでに旧図書館に変わっている。

石本教育長

すでに変わっていたか。旧警察署は教育委員会移転のために全館改修工事中である。その間青少年サポートセンターは旧図書館へ移転している。旧図書館の方が小ぢんまりとして行きやすいのでは。

長見所長	旧図書館は2階を使っているが、エレベーターがないとかトイレが1階にしかないなど問題はある。
石本教育長	特別記述の変更はないか。
長見所長	はい。
石本教育長	それではNo. 41 から No. 50 のところで何かあるか。 No. 48 から No. 54 まで図書館の記述があるが、ここも少し記述が簡略に書いてあるので、これも他とバランスを合わせる感じで書き込みをお願いできるか。
島田館長	承知した。
金本委員	No. 48 の図書館のところで、具体的な取組が多様な分野の図書の充実で、目標と実績が蔵書冊数になっているが、それが多様な分野とつながるのか。
石本教育長	書きぶりとして、全体ではこのくらい増えたが特にこういった分野に力を入れて集めた、といったことをこの中に載せられるか。
島田館長	分類ごとにとということか。
石本教育長	そうである。例えば、今まで科学の分野が少なかったなのでその辺の蔵書を集めるのに力を入れたとか、そういったことが多様な分野の図書の充実につながるのではないか。選書をするのに今年はこの点に重点を置いて選書をしたというものがあれば、ここへ載せられたらまさに良い記述となる。
島田館長	承知した。
石本教育長	No. 47 の公民館の改修について、これは今までもこういった形のものがあったが、それぞれの事業がいくらからい経費がかかったか書いてなかったか。数値的などころが。
山根課長	覚えていないが入れておこうか。
石本教育長	決算などで使う重要事項の報告書には、必ずこれぐらいの経費がかかったと書く。目安として書いてみてはどうか。簡単に分かるか。
山根課長	分かる。
石本教育長	No. 45 の28年度実績のところで、3地域課題解決型公民館支援事業9館とあり、その後にやったことが書いてあるがこれで9館になるか。国府公民館、今市公民館、白砂公民館、それに金城の6館であれば9館になるが、その前に雲城公民館がある。どういうことか。
村木室長	雲城は雲城で単独で事業をされた。ダブルでされた。



石本教育長	久佐公民館の括弧は。
村木室長	久佐公民館が代表館であったので、あえて入れている。
石本教育長	分かりにくい。久佐公民館はいらぬのでは。延べ 10 館にしてみてもどうか。検討をしてみてもは。いずれにしても久佐公民館は消そう。
石本教育長	No. 46 の 28 年度の実績のところでは 17 の公民館で人権同和問題学習会を実施しているが、例としてどんな事をされたのか。ここはあっさり書いてある。例えば公民館でも外部から講師を呼んで講演会をしているところもある。全部は書けないので、例として何館か書いてみる。その方が具体的にわかりやすい。
村瀧室長	様子を聞いてみる。
石本教育長	公民館でも高名な講師の方を呼んでやっておられるところもある。
	それでは No. 50 までのところはよろしいか。
委員方	はい。
石本教育長	図書館の関係の項目を全体的に検討願います。
	No. 51 から No. 60 までのところで何かあるか。
宇津委員	No. 58 「JFA 夢の教室」の開催についてであるが、2 校選んでおられるが何か基準があるのか。
山根課長	今までは自治区のことでも考慮し順番に行っていたが、だいたい 1 回りしたので希望を出していただいた。
宇津委員	評価のところでは、「これを実施したことにより生活態度あるいは様々な活動に変化が現れた、良い方向に行った」という表現がなされているが、市内にいくつか学習に取り組めない、收拾がつかないクラスがあると聞いている。そういったクラスでこの教室を開催してみるという手もあるのかなと思う。そういう子どもたちが若干でも感動して何か変化を起こしてくれれば、学習に取り組む姿勢も変わってくるのではという気がする。そういったことも含めて選定できるのであれば、加味しておいてもらいたい。
山根課長	承知した。
石本教育長	基本的に 5 年生が対象であるか。
山根課長	そうである。
金本委員	No. 59 の目標の表記の仕方について。「伝えたい」というのは少し違うのではないか。
石本教育長	これでは評価になってくる。内容はこういったことを実施したいということが書いてあり、28 年度についてはおそらく、その

	次の実績に書いてある、千葉すずさんと呼んでのスイムスクールを実施したいというのが計画だったのでは。28年度にはそれを実施して、そこに書いてあることが実施できたという事である。確かに、金本委員が言われるようにこれは目標になっていない。28年度の計画があったはずなので、それを書いておけば良いのでは。参加者は30人であったか。
山根課長	確認した。
金本委員	定員が30人だったのか。
山根課長	そうである。確認済である。
石本教育長	先ほどのNo.58「JFA 夢の教室」を2回開催するというのは、同じ事を2校で開催するということであるか。それとも違う先生を呼んで2回開催するという意味であるか。
山根課長	同じ事を2校で開催するという意味である。
石本教育長	「2校で実施する」という書き方が良いのではないか。数値目標が2回になっているので、実績を見たら1回しかしていないと思うのでは。
山根課長	検討する。
石本教育長	その他お気付きの点はあるか。
委員方	特になし。
石本教育長	それではNo.61から最後までのところでは何かあるか。 No.64の目標について。全体の入館者数でなく創作活動の受講者を10,000人としていたか。
外浦課長	そうである。
石本教育長	創作活動の受講者数の目標が10,000人で、その数をクリアできたということか。
外浦課長	そうである。
石本教育長	総合振興計画でもそうであったか。世界こども美術館と石正美術館と両方合わせて50,000人と出していなかったか。チェックせずに言って申し訳ないが、総合振興計画との整合性も調べてみては。
外浦課長	総合振興計画は創作活動10,000人、石央文化ホールは55,000人である。
石本教育長	石正美術館は創作活動受講者数でなく、入館者数であるか。
外浦課長	総合振興計画の目標は、石正美術館も創作活動である。
石本教育長	No.65について石正美術館の創作活動、色々な絵画展、展覧会等をされるが、その辺の記載はしないのか。具体的な取組は、石

正美術館の管理運営になっているので、展覧会も創作活動も含めての記述となると思う。総合振興計画で創作活動と言っているのにここに書いてないのはおかしい。実績のところには創作活動や絵画教室等をやったことを書いておけば良い。

同じく No. 65 について。去年、石本正先生の日本画大賞展の第 2 回目をやっているのでは。その辺を「7 回の企画展」という記述ではなく、「全国の大学生何名の応募により、2 回目の石本正日本画大賞展を行った」といったくだけりを入れた書き方をしてはどうか。これから石本正日本画大賞展を石正美術館の中で一番大きな事業の 1 つにしていくのであるから。

吉野分室長

石本正日本画大賞展であるが、平成 28 年度の第 2 回については芸術と文化のまちづくり実行委員会の方で主催しており、石正美術館が主ではない。第 3 回目から石正美術館で重きを置いてやっている。その辺があるので入れ込んだほうが良いものかどうか。

石本教育長

石正美術館を使ってやったことであるので入れておけば良い。石本正という冠を付けた展覧会であるので。それなら民間の芸術と文化のまちづくり実行委員会と一緒にやって書いたと書いてはどうか。去年のものを見ると、おそらく芸術と文化のまちづくり実行委員会と共催のはずである。

他はどうか。

No. 70 の記述を見ると中学生は郷土資料館には行っていないということか。小学校の授業では行っているが。中学校は実績がない。27 年度には戦後 70 年の展示のときに、第一中学校の生徒が行ったという話を聞いたが。

委員方から他にあるか。

宇津委員

No. 69 は前にも少しお尋ねしたことがあるが、旭自治区、弥栄自治区にまだ指定の文化財が存在しないのだが、現状はどうか。子どもたちにしてみれば、指定された文化財がわが町や村にあると随分違うのではという気がするが、見通しとしてはどうか。難しい状況か。

外浦課長

現状として旭、弥栄自治区はなかなか難しいところである。

石本教育長

確かに旧町村のものを皆引き継いでいるので、町村によって温度差があるのは間違いない。金城町は色々な木が名木としてたくさん指定されている。

藤本委員

文化財の指定を申請するかしないかという問題であるが、ここ

は首長の理解を得た中でしないといけない。そのときに、後の維持管理ができるかという、1つの問題が出てくる。それがネックとなって、本来は申請できる物件もあるのであろうが申請しないという結論に至った経緯がある。所有者は承諾されるが、そこから先に問題がある。

石本教育長

確かに維持管理の面で経費を考えたら、踏み切れないというのは良くわかる。旧市町村でばらつきがあるのを放っておくのもどうかと思う。

一応ざっと目を通した。まだご意見があると思う。冒頭申し上げたように8月28日(月)17時までのところでご意見があれば、教育総務課湯浅係長までご連絡いただきたい。重ねてお願いをする。

後は目標達成のところがあるが、これは数字に基づいて書いてあるだけなので特に審議はないか。

湯浅係長

はい。

石本教育長

続いて資料3である。総評ということで、大きな項目ごとのまとめが書いてある。これも事前に送っているのか。

湯浅係長

送っていない。一旦目を通していただいて、ご意見をいただいてもよろしいか。

藤本委員

これも合わせてでよいのでは。

石本教育長

ではこれについては今日初めてお配りしたということなので、また読んでいただき合わせてご意見いただければと思う。

### (3) 教育委員会学校訪問について(資料4)

湯浅係長

平成29年度教育委員会学校訪問についてご説明させていただく。今教育長からも説明があったが、幼稚園に係る訪問である。昨年度も2学期に実施している。計画案についてはここに配布した内容のとおりであるが、基本的には昨年度と中身に変更はない。

意見交換については、幅広く色々とお聞きになりたいことをお話しいただくような意見交換を想定している。

それから実施期間については昨年10月であったので、今年度も10月ぐらいを予定していきたいと考えている。1日あたり午前中で2園ということで、2日間と、予備日として1日程度。これは園の予定等も確認をして、状況により判断をさせていただき、合計3日間の午前中ということで確保させていただければと

	<p>思う。実施の時期であるが、10月10日（火）の週から翌週辺りまででいかがかと考えている。この場で候補日を伺って良いか、または持ち帰っていただいて改めて確認させていただいた方が良いかというところでご提案お願いしたい。</p>
石本教育長	<p>今この場で候補日の3日間を決めるのは難しいのでは。○×をつけてもらって調整した方が良いのではないか。10月10日（火）の週ということであったが。</p>
湯浅係長 藤本委員 石本教育長 委員方	<p>他の週でも構わない。 幼稚園が特に希望がなければ今ここで決めても構わない。 10月12日（木）、13日（木）の午前中かどうか。 大丈夫である。</p>
石本教育長	<p>それでは10月12日（木）、13日（金）の午前中のところで2園ずつ回り、予備日を10月16日（月）の午前中ということできりあえず日程調整させていただく。意見交換のテーマについては幼稚園なので特にテーマを設けずに自由に意見交換をするということによろしいか。</p>
委員方 石本教育長	<p>よい。 幼稚園の学校訪問の日程が決まった。委員の皆様にはよろしく お願いしたい。</p>

### 3 部長・課長等報告事項

佐々木部長	<p>平成29年9月浜田市議会定例会 提出議題（資料5） 来月から9月定例議会が始まるが、そこでの教育委員会からの提出議題と補正予算の関係について説明させていただく。まず資料の5であるが、これは提出議題ということで文化振興課の関係である。教育文化振興事業団の経営状況の報告ということで、9月は決算委員会があるのでこの報告をする予定にしている。 平成29年度 一般会計補正予算（第3号）説明資料（資料6） 1枚めくっていただいて裏側に、今回教育委員会から出す補正予算の事業内容が書いてある。石正美術館の喫茶室の一部を、石本正先生のアトリエをイメージした空間に改修するというものである。下に事業費が書いてあるが、全体で1,200万円の補正で、今年度中でこの改修を行うという内容のものである。</p>
河上課長	<p>行事等予定表（資料7）</p>

森脇課長

1ヶ月間の行事予定を載せている。8月24日(木)本日が定例教育委員会である。右から2つ目の欄のところで委員方の出席依頼をしているものを載せているので説明させていただく。9月6日(水)には、少年の主張浜田大会が石中央文化ホールで行われる。すでに案内は送っていると思う。ご参加をお願いしたい。次の定例会ということで9月26日(火)浜田公民館ということで予定している。9月は議会もあり少し行事が少ないが、こういった形で予定がされている。なお、運動会については教育総務課で再度説明させていただく。

浜田市の特別支援教育について

～教育上特別な配慮が必要な子どもの支援のために～(資料8)

4ページをご覧いただきたい。平成29年度の重点テーマということで、今、2. 教育的ニーズの把握(4)相談支援チームの教育相談機能の強化ということで、幼稚園、保育園から小学校1年生に上がった子どもの中で特別支援学級に上がった子どもについては、学校訪問をして支援状況をチェックするというようなことを行っている。

また、4. 教育環境の整備(1)特別支援学級担任教員の専門性の向上というところであるが、特別支援学級の担任が新任の教員の場合には、県の指導主事と合わせて学校訪問して指導、助言を行っているというところが今年の重点テーマである。

5ページをご覧いただきたい。浜田市の特別支援教育の状況ということで28年度の状況をまとめている。1教育委員会の取り組み状況(2)相談支援チームの活動状況ということで表がある。この中で、平成28年度については0歳児から5歳児まで257名の様子を幼稚園、保育園で見て色々な教育相談を行った。その下の2浜田市教育支援委員会の状況(2)審議件数の状況を書いている。平成28年度は表の1番下になるが、幼稚園、保育園で18件、小学校で35件、中学校で3件、合計56件の審議をした。

次、右の6ページを見ていただきたい。3通常の学級における特別な支援が必要な児童・生徒数調査を載せている。過去5年間の様子であるが、1番下のところ、平成29年度では、小学校で10.54%(272人)、中学校で10.21%(139人)。小中学校で合わせて10.43%(411人)の通常学級に気になる子どもがいるという状況がある。4に特別支援学級の児童生徒数を載

せている。ここで学年ごと、また障がい種ごとに載せているが、縦に見ていただくと上のところに自閉・情緒、その右側に知的があるが、下の合計では自閉・情緒が56名、知的が42名ということで自閉・情緒の困難さを抱える子どもが増えている状況が覗える。

次のページをご覧ください。7ページの9 平成29年度特別支援学級・通級指導教室・にこにこサポートの状況載せている。この中で周布小学校において特別支援学級の知的の児童が8名いる。県から、県下でもこういう大変な状況があり色々な支援を考えたいということで、年度の途中であるが支援策として特別支援の加配をつけると言っていたが、2学期を目前にして具体的に誰がという事が決まっていないう状況である。国府小学校のところで、特別支援学級の知的、自閉・情緒それぞれ5名になっている。支援策のところ「にこ特(知)」と書いているがこれは誤りであるので消していただきたい。

雲城小学校のところを横に見ていただくと、知的が1名で、自閉・情緒が8名となっている。これに対して支援策にこ特の非常勤講師を付けていただいたところである。

平成29年度「浜田市図書館を使った調べる学習」応援講座事業(資料9)

これは「調べる学習コンクール」をやっているのだが、夏休み中に親子で調べる学習をしてみませんか、その講座を受けてみませんかということで、7月26日(水)と7月27日(木)を設定し、できたら両日ともご参加くださいと募集をした。8経過と概要の右のところに参加者数が書いてある。学年ごと、年度ごとで書いてあるが、29年度は13組の参加をいただいた。裏面をご覧ください。学校司書教諭と保護者が一緒になって子どもと調べる学習を行った。この中で主体的・対話的で深い学びということが親子で体験できたのではないかと思います。

平成29年度 はまだっ子共育プロジェクト研修会IV  
～地域ぐるみで子どもを育むための連携協働について～(資料10)

第4回目である。先ほど教育長日程にもあったが去る8月10日(木)に開催した。この度はこのはまだっ子共育プロジェクトについて、関係者の皆様に理解していただくという事が主な目的であった。参加者は113名ということで、内訳は小中学校

山根課長

から 25 人、PTA 関係者が 8 人、社会教育委員 2 人、地域から 3 人、公民館職員が 39 人、コーディネーターが 6 人、児童クラブからも 17 人、認定子ども園から 1 人、行政関係者が 12 人の計 113 人の方に出席いただいた。

内容については、書いてあるとおりプロジェクトについての説明と、熊谷先生が岡山大学の教授をしておられ、益田市の出身ということで中央教育審議会の分科会の委員、日本生涯学習学会の常任理事などもしておられる。この日もわかりやすい講演をいただいたということで、2 面のところでアンケートの結果を集計しているが、ほとんどの方から好評であった、理解できたというような感想をいただいている。それから感想の抜粋として、下のところへ載せているが「児童クラブの仕事に生かしたい。」「地域と学校が双方向となることが大切だ」というようなご意見をいただいた。今後もこういった理解の下で、このプロジェクトを進めていきたいと考えている。

第 14 回浜田市教育長杯子ども囲碁大会を開催しました（資料 11）

8 月 19 日（土）ほぼ 1 日かけて開催された。当初の出席は 24 名となっていたが、当日都合が悪いというような児童も出て 20 名の参加であったので、4 つのクラスに分かれて対戦していただいた。この中では今井産業様、今井美術館様、クボタ牛乳様から協賛をいただいていた。

石正美術館アトリエ実現事業について（資料 12）

先ほど部長から 9 月定例会の補正予算の説明があったが、それに関連するものである。この度、故石本正先生の業績を後世に残していきたいというご親族の強い思いを受けて、石正美術館内の喫茶室の一部を、先生が生前に使用していたアトリエをイメージしたメモリアルホール的な施設に改修し、再現する。工事期間は未定であるが今年の 12 月から来年の 3 月としている。そのときにはオープニングセレモニー等の開催も予定している。イメージは下の図をご覧ください。大きな窓ガラスがあり、その向こうに再現したアトリエを来館者の方に見ていただく。手前にはテーブルとイスを置いて、座ってお茶でも飲みながらご覧になっていただくというような構造になっている。この事業については、ご親族様からの寄附金を当てるということにしている。

外浦課長



石本教育長	今資料のあるところについて報告いただいた。資料のないところで課長方から何か報告があるか。
各課長	特になし。
石本教育長	それでは委員方から質問等はあるか。
質疑応答	
藤本委員	浜田市教育長杯子ども囲碁大会について。浜田市だけの参加かと思ったら 20 名のうち 7 名だけで、市外からの参加者が多い。第 14 回ということでかなり歴史がある。最初からこういうふうな感じか。意外に思った。
石本教育長	そうである。浜田では旭小学校に熱心な方がおられ、子どもたちが一生懸命囲碁に取り組んでいる。D クラスは優勝から 3 位まで旭小学校の生徒が占めた。
藤本委員	もう少し浜田の子どもがいてもいいかなと思う。
石本教育長	江津から 4 名来る予定であったが、急遽来られなくなり 24 人の予定が 20 人になった。A クラスの優勝者の金城中の安達さんと出雲二中の玉木さんは、県の代表で 8 月頭に全国大会に行ったメンバーである。
藤本委員	県レベルの大会はあるのか。
石本教育長	全国大会の、県予選がある。そこで安達さんが 1 位、玉木さんが 2 位か 3 位で県代表であった。全国大会には 3 人出られたと思う。玉木さんは中学 1 年生、安達君は中学 2 年生である。安達君は今までも全国大会へ 2、3 回行っている。
	資料 12 の石正美術館のアトリエ再現事業について、今日の中国新聞に詳しく掲載されていた。また事務所に戻ってから新聞のコピーを配布する。昨日取材があつて今日掲載してくれていた。
	夏休みなので、色々研修等の報告があり、学校の先生方も含めて何かと忙しい夏であると思った。9 月 6 日（木）の少年の主張浜田大会今年も先生は審査員で出られるのか。
宇津委員	審査員で出る。
金本委員	森脇課長まで出席を連絡することになっていたが。
森脇課長	今言っても構わない。
藤本委員	出席する。
金本委員	出席する。
森脇課長	ありがとうございます。
藤本委員	浜田市中学校駅伝というのがあるが、これは特に教育委員のと

石本教育長	<p>ころに丸はないが、だいたい出席している。</p> <p>これも案内が行く。9時20分が開会式で10時がスタートであったと思う。何年か前に行ったら行った時間がスタートの時間で、開会式に参加できなかったことがあった。</p>
藤本委員 宇津委員	<p>やはり行くのであれば開会式から行きたい。</p> <p>先ほど森脇課長から説明があった、通常の学級における特別な支援の必要な子どもが年々増えているということであるが、実際に10%を超えているので30人学級でそれぞれの学級に3人はいるということである。それに対するサポートも入っただいてはいるが、特に学級担任の先生は神経を使っている気がする。我々はそういった目で先生あるいは学校を見ていかないといけないと感じた。</p>
石本教育長  委員方	<p>ありがとうございます。</p> <p>その他ご意見等あればお願いしたい。</p> <p>特になし。</p>

#### 4 その他

##### (1) 運動会（体育祭）の日程について（資料13）

湯浅係長	<p>平成29年度運動会出席者一覧をご覧いただきたい。前回の教育委員会定例会で調整した結果を載せているので、出席のところについてはご確認いただきたい。次にA3判の表をつけているが、日付順の出席予定となっている。順延等になった場合、予定日等、当初計画していた学校が重なった場合には、改めて、事務局の管理職含めて調整をさせていただきたいと考えている。今回は特に予備日の出席のところについては入れていないが、順延となった場合は、このような形で出席いただくこととなるのでご承知おきいただきたい。それから事務局側の管理職の方においてもご対応いただくことがあろうかと思う。その場合にはご承諾等をしていただきたい。それから参考であるが、9月11日（月）に本会議、議案質疑、予算決算委員会等が予定されている。また、9月12日（火）には総務文教委員会が予定されている。この日に開催がされるというようなときには、事務局側の管理職等では対応が難しいと考えているので、そういったときには可能であれば委員方のご出席をお願いせざるを得ないと思う。それから各管理職の方は所属課で、場合によっては係長級の方のご出席をお願いすることになると思うので、その</p>
------	--

石本教育長	場合はご承諾いただきたい。 運動会等の出席者の依頼についてであった。雨天で延期になったときの予備日の出席については、難しい面もあろうかと思う。委員方をお願いをして難しい場合、教育委員会の中での対応も難しい場合には、出席できない事が今までもあった。本当は誰かが行くべきなのだが、何日も雨が降って行けないときもあったので、そういった事もあったとご承知おきいただきたい。この日程で、今まで聞いているのと違うところはあるか。
委員方	特になし。
石本教育長	ではこの日程の通りご出席よろしくお願ひしたい。 その他のその他について何かあるか。
湯浅係長	特になし。

次回定例会日程

定例会 9月26日(火) 13時30分から 浜田公民館第2研修室

次々回定例会日程

定例会 10月27日(金) 13時30分から 中央図書館

16:01 終了